

執筆者紹介

美根慶樹(みね・よしき)

キヤノングローバル戦略研究所研究主幹。1968年外務省入省。中国関係、北朝鮮関係、国連・軍縮などを手掛けた。在ユーゴスラビア連邦大使、地球環境問題担当大使、アフガニスタン支援担当大使、軍縮代表部大使、日朝国交正常化交渉日本政府代表などを務め、2009年退官。著書に『スイス、歴史が生んだ異色の憲法』(ミネルバ書房)、『国連と軍縮』(国際書院)、『以下共著』『21世紀の中国 軍事外交篇』(朝日新聞出版)、『21世紀の中国 政治・社会篇』(朝日新聞出版)、『日中印の真価を問う』(白帝社)など。

及川淳子(おいかわ・じゅんこ)

日本大学大学院総合社会情報研究科博士後期課程修了、博士(総合社会文化)。研究分野は現代中国の言論空間。現在は、法政大学客員学術研究員、桜美林大学北東アジア総合研究所客員研究員、日本大学文学部非常勤講師。著書『現代中国の言論空間と政治文化——「李鋭ネットワーク」の形成と変容』(御茶の水書房、2012年)など。

西 茹(シー・ルー)

北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 国際広報メディア・観光学院、東アジアメディア研究センター准教授。中国遼寧省『新思惟』、『遼寧青年』編集者(1986〜1999年)を経て、北海道大学院国際広報メディア研究科博士課程修了(2008年)、国際広報メディア博士。著書に『中国の経済体制改革とメディア』(集広舎、2008年)、『以下共著』『現代中国を知るための40章』(明石書店、2012年)、『新聞ジャーナリズム論——リップマンの視点から中国報道を読む』(桜美林大学北東アジア総合研究所、2013年)など。

福島香織(ふくしま・かおり)

ジャーナリスト。大阪大学文学部卒。産経新聞社に入社後、上海復旦大学に語学留学し、02年春から08年まで中国総局記者として北京に駐在。09年、同社を退社し、現在はフリージャーナリスト。著書に『中国の女』(文春文庫)、『現代中国悪女列伝』(文春新書)、『中国のマスコミ』(扶桑社新書)など。

古畑康雄(ふるはた・やすお)

1966年東京生まれ。89年東大文学部卒業後、共同通信社に入社。地方支社局、北京対外経済貿易大学留学、本社経済部などを経て、01年から国内主要メディア初の中国語ニュースサイト「共同網」を企画運営。現在も同サイトの編集を担当。主な著書に『網民』の反乱(勉誠出版)など。

安江伸夫(やすえ・のぶお)

テレビ朝日報道局勤務。企業派遣留学中に天安門事件(1989年)に出会う。1990年から5年間の北京支局勤務など東アジアで豊富な現地取材経験。BSニュース・コメントーターを経て、現在は朝帯生番組「グッドモーニング」で視聴率競争最前線に。ネット世論と中国共産党の関係、反日世論などを研究。著作に『中国情報源2013〜2014』、『中国ネット最前線』、『中国環境ハンドブック2011〜2012』(いずれも共著。蒼蒼社)など。

本田親史(ほんだ・ちかふみ)

明治大学・神奈川大学等講師(中国語・中国社会論など)。1990年東京外語大中国語学科卒業後、報道機関勤務、私立大学大学院などを経て現職。博士(社会学)。研究領域は中国語圏の言語・社会・メディアと時空間編成。主な論文に「メディア・運動・モダンティ―1990年代以降の台湾海峡兩岸における公共空間形成過程」アジア・アフリカ研究2012年第52巻第2号(通算404号) 18〜36ページなど。

山田賢一(やまだ・けんいち)

NHK放送文化研究所上級研究員、中国研究所理事。一橋大学経済学部卒。1984年NHK入局。金沢支局、東京国際部、北京駐在、東京経済部等を歴任。02年よりNHK放送文化研究所研究員、04年より同主任研究員、14年より同上級研究員。中国・台湾・香港のメディア事情研究を担当し、主なりレポートとして、『対外発信強化に動く中国』(放送研究と調査)2010年2月号、『統制色強まる中国のメディア・言論政策』(同)2014年2月号)など多数。

柯 隆(か・りゅう)

1963年、中国南京市の生まれ。88年来日、92年愛知大学法経学部卒業、94年名古屋大学大学院経済学研究所修士、同年より長銀総合研究所国際調査部研究員、98年より富士通総合経済研究所主任研究員、07年より同首席研究員、静岡県立大学特任教授、広島経済大学特別客員教授。専門は開発経済学、著書は『中国の不良債権問題』(日本経済新聞出版社、2007年)など多数。